

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	自主防災活動推進事業			事業番号	14-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	企画部危機管理担当	大山 剛	危機管理課	大山 剛	

計 画 (P l a n)						
総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち		
		基本政策	4	災害に強い安全なまちづくり		
		施策展開の方向	7	災害から市民のいのちを守るまちをつくる		
		施策	14	みんなで取り組む地域防災力の強化		
予算事業名	自主防災活動育成事業費					
事務区分〔選択〕	☒ 自治事務	☐ 法定受託事務	(選択してください)→		法令上の位置づけ義務づけ規定がある	
事業開始年度	開始年度	平成7年度		～	終了年度	
関連法令等	災害対策基本法					
国・県の計画等	防災基本計画、神奈川県地域防災計画			計画期間		
関連個別計画	伊勢原市地域防災計画			計画期間	昭和49年～(平成25年改定)	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	本市は、東海地震に係る地震防災対策強化地域、南海トラフ地震防災対策推進地域、首都直下地震緊急対策区域にそれぞれ指定されています。これらの巨大地震が発生した場合は、市域に甚大な地震災害が発生することが想定されます。過去の自然災害の教訓を踏まえ、災害応急復旧対策においては、地域の防災活動が重要であり、地域防災力の向上を図るための取組を推進する必要があります。					
目 的 (何をどうしたいのか)	地域住民や事業所等による自主的な防災活動の充実を図るため、防災リーダーの養成や防災アドバイザー制度の創設、防災登録事業所制度の周知等に取り組めます。					
主な対象 (誰・何を対象に)	自主防災会、市内事業所、災害ボランティア					
事業内容 (手段、手法など)	・地域防災の中核を担う防災リーダーの養成研修会を開催します。 ・防災登録事業所制度の周知を図るとともに、自主防災会との連携体制を構築します。 ・自主防災活動に必要な資機材助成を行います。 ・身近な地域に防災に関する見識や知識、経験を有する人材を確保するため、新たに防災アドバイザー制度について調査・研究を行い、制度を構築します。					
事業行程	項目	年度				
		平成30年度	令和元年度	令和2年度		
		防災リーダー研修の開催	4回開催	4回開催	4回開催	
		防災協力事業所数の拡大	普及啓発・連携強化	普及啓発・連携強化	普及啓発・連携強化	
		資機材助成	実施	実施	実施	
目 標	防災アドバイザー制度の創設と任命者数	調査・研究	調整	運用開始		
	【指標名】	【現状値】	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	—	調査・研究	調整	制度創設 10人任命		



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	今年度は、本市でビッグレスキューかながわ(県市合同総合防災訓練)が実施されます。本訓練を実施して得られた課題等を確認し、自主防災会の充実・強化を図ります。				
実施方法 〔選択・記入〕	☒ すべて直接実施 ☐ 左記以外				
	☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者		
	☐ 補助金		補助先		
	☐ その他		具体的内容		
実施結果	項目		年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	防災リーダー研修の開催		4回開催	4回開催	
	防災協力事業所数の拡大		普及啓発・連携強化	普及啓発・連携強化	
	資機材助成		実施	実施	
防災アドバイザー制度の創設		調査・研究	調査・研究		
実施した取組の内容	○自主防災リーダー養成研修会を年4回、延べ821名が参加した。 ○一般財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用した資機材助成を行うとともに、自主防災活動で必要な防災ヘルメット、担架、拡声器等を随時、貸与した。				
目標の達成状況	【指標名】		年度		
		【現状値】	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	防災アドバイザー制度の創設と任命者数	—	調査・研究	調査・研究	

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績				
	事業費合計 (a)		468		千円	2,226		千円	0		千円				
	内訳	国県支出金 ①	131		千円	75		千円	0		千円				
		地方債 ②	0		千円	0		千円	0		千円				
		その他特財 ③	0		千円	2,000		千円	0		千円				
		一般財源 (a)-①-②-③	337		千円	151		千円	0		千円				
	国県支出金の内容		神奈川県市町村地域防災力強化事業費補助金(補助率1/3) コミュニティ助成事業「地域防災組織育成助成事業」												
	その他特財の内容	受益者負担	☐ 有 ☒ 無		前回の改定時期										
		その他													
	人件費	正規職員		0.85	人	7,234	千円	0.85	人	7,395	千円	0	人	0	千円
		その他の職員		0.85	人	2,134	千円	0.85	人	2,253	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)		1.7	人	9,368	千円	1.7	人	9,648	千円	0	人	0	千円
	トータルコスト (a)+(b)		9,836		千円	11,874		千円	0		千円				
	単位当たりコスト	対象数	定義	市民		単位	市民		単位			単位			
			対象数	102416		人	102,248		人						
				総事業費／対象数	96		円	116		円			円		

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	☐ 計画どおり (A) ☐ 概ね計画どおり (B) ☒ 計画どおり進捗せず (C)	C	左記判断理由	令和元年度ビッグレスキューかながわ(県市合同総合防災訓練)に向け、各自主防災会の中核を担う防災リーダーの養成を図るとともに、コミュニティ助成事業を活用した自主防災会の資機材物品の整備および活動物品の貸与等について取組んできた。 自主防災アドバイザー制度の創設、防災登録事業所の増加に向けた取組については、十分ではありません。
実施水準 〔選択・記入〕	☐ 他市より高い水準で実施 (A) ☒ 他市と同水準で実施 (B) ☐ 他市より低い水準で実施 (C) ☐ 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	令和元年度ビッグレスキューかながわを通じて、市単独では実施することができない大規模災害時における防災関係機関等の広域的な応援体制の点検・確認をおこなうことができました。
有効性 〔選択・記入〕	☒ 高い (A) ☐ 普通 (B) ☐ 低い (C)	A	左記判断理由	近年、全国各地で発生する大規模災害に備え、自助、共助、公助が一体となった取組が不可欠です。
効率性 〔選択・記入〕	☐ 効率的に実施されている (A) ☒ 改善の余地がある (B) ☐ 抜本的な改善が必要である (C)	B	左記判断理由	自主防災会の充実・強化を図るためには、全国各地で発生する大規模災害を教訓に、自主防災リーダー養成研修会のカリキュラムを毎年、見直す必要があります。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	☐ 現状のまま継続 ☒ 見直しの上継続	事業推進上の課題	過去の災害教訓を踏まえると、防災資機材や防災訓練、防災研修会を、その都度、見直していく必要があります。
令和2年度の取組方針		令和元年度ビッグレスキューかながわで得た教訓や技術・知識を踏まえ、中央会場と地域会場を設け各地区を輪番制の方式とした総合防災訓練を実施するとともに、大規模地震だけではなく、風水害を想定した防災訓練も実施します。		
所管部長による総評		昨年の台風の避難所運営における反省点を踏まえ、本市の危機管理体制が効果的に機能させるためには、市民一人一人が災害時の正しい避難行動を理解することが不可欠である。 総合防災訓練のみならず、各地区自主防災組織を対象としたきめ研修の機会を増やし、災害に対する意識啓発に努める必要がある。		